

五つのパンと二匹の魚

マルコの福音書 6章 30-44 節

はじめに

今日の聖書箇所には、イエス様が五つのパンと二匹の魚を増やして、五千人の群衆を満腹にされるという不思議な出来事が書かれています。この出来事は、「五千人の給食」と呼ばれ、四つの福音書のすべてに書かれているとても貴重な出来事です。

1. 弟子たちの宣教報告

まず始めに「五千人の給食」が行われた背景を見ていきたいと思います。イエス様の弟子たちは、「**汚れた霊を制する権威**」(マルコ 6:7)を与えられて、二人ずつ宣教旅行に遣わされていました。彼らは、遣わされた場所で、「**人々が悔い改めるように宣べ伝え、多くの悪霊を追い出し、油を塗って多くの病人を癒やした**」(マルコ 6:12-13)のです。彼らの宣教旅行は、大成功でした。彼らは宣教旅行を終えると、イエス様のもとに帰って来て、「**自分たちがしたこと、教えたことを、残らず**」報告したのです。

彼らが報告したことは、「自分たちがしたこと」と「自分たちが教えたこと」でした。彼らが「したこと」というのは、「多くの悪霊を追い出し、油を塗って多くの病人を癒やした」ことでした。また彼らが「教えたこと」というのは、「悔い改めるように宣べ伝えた」ことでした。彼らの宣教は、「癒やし」と「教え」の二つによって行われました。それは「行い」と「言葉」と言っても良いかもしれませんが。また「体の必要」と「魂の必要」と言っても良いかもしれませんが。ここから教えられることは、宣教というものは、「行い」と「言葉」によって行われる、また「体の必要」と「魂の必要」によって行われるということです。

イエス様の宣教においても、いつも「癒やし」と「教え」が行われていました。今日の聖書箇所でもイエス様は、「教え」を通して群衆の「魂の必要」を満らし、「奇跡」を通して群衆の「体の必要」を満たされます。

宣教というものは、イエス様から弟子たちへ、そして弟子たちから私たちへと受け継がれています。その意味で、私たちの宣教も、「言葉」と「行い」の両面を通して、人々の「魂の必要」と「体の必要」の両面を満たしていかなければならないということがお分かりいただけると思います。

イエス様は、弟子たちの宣教旅行の報告を聞いた後、「**さあ、あなたがただけで、寂しいところへ行って、しばらく休みなさい**」と言われます。疲れを覚えている弟子たちを気遣う優しい言葉です。こうして彼らは、「**自分たちだけで舟に乗り、寂しいところに行った**」のです。ここには、「あなたがただけで」とか「自分たちだけで」とあるので、舟に乗って寂しいところに行っ

たのは、弟子たちだけのようにも見えますが、イエス様も一緒だったようです。31 節に「**出入りする人が多くて、食事をとる時間さえなかった**」とあることから、イエス様はとにかく、大勢の群衆から弟子たちを引き離し、彼らを休ませようとしたのです。

2. イエスの深いあわれみ

しかし、弟子たちを休ませようとするイエス様の計画は、大勢の群衆によって邪魔されてしまうのです。群衆は、弟子たちが「**出て行くのを見て**」、弟子たちが行こうとしていた「寂しいところ」に徒歩で先回りしていたのです。ですから、弟子たちが「寂しいところ」に着いた時には、すでに大勢の群衆が待ち構えていたのです。しかもその数は、「**男が五千人**」でした。ものすごい大勢の群衆が、イエス様と弟子たちを追いかけて来ていたのです。

この時の弟子たちの気持ちは、どのようなものだったのでしょうか。宣教旅行の疲れが残っている彼らは、大勢の群衆を見て、うんざりしたのではないのでしょうか。「いい加減、休ませてくれ」「一人にしてくれ」そのような気持ちだったのではないのでしょうか。

ではイエス様の気持ちは、どのようなものだったのでしょうか。イエス様は、大勢の群衆を見て、「**彼らが羊飼いのいない羊のようであったので…彼らを深くあわれみ、多くのことを教え始められた**」のです。この「深くあわれむ」という言葉は、「心が痛む」という意味の言葉です。イエス様は、大勢の群衆を見て、深く心を痛まれたのです。なぜなら彼らが、「羊飼いのいない羊」のようであったからです。羊飼いのいない羊は、「**弱り果てて倒れて**」(マタイ 9:36) しまいます。羊飼いのいない羊は、自分たちで牧草地や水飲み場を探すことも、狼から身を守ることもできません。そのため、彼らは「弱り果てて倒れて」しまうのです。また羊飼いのいない羊は、さまよって、自分勝手な道に向かって行ってしまいます(イザヤ 53:6)。彼らは自分勝手なのです。自己中心なのです。その自己中心の罪によって、自分自身を苦しめているのです。彼らは、自分のことで精一杯です。ですから弟子たちの疲れなど、配慮する余裕はありません。

イエス様は、そのような大勢の群衆を見て、深く心を痛まれたのです。そして、彼らの「羊飼い」となろうとされたのです。イエス様は、どのようにして彼らの「羊飼い」となられたのでしょうか。それはまず、「**多くのことを教え**」ることを通してです。イエス様は、彼らに御言葉を教えることによって、彼らの「魂の必要」を満たし、彼らの「羊飼い」となろうとされたのです。しかし、それだけではありません。イエス様は、彼らに「パンと魚」を与えることによって、「**彼らの体の必要**」をも満たし、彼らの「羊飼い」となろうとされたのです。イエス様は、羊飼いのいない羊のような大勢の群衆に深く心を痛め、彼らの「魂の必要」と「体の必要」を満たすことによって、彼らの「羊飼い」となろうとされたのです。

3. あなたがたが食べ物をあげなさい

イエス様は、時間を忘れて群衆に対して、御言葉を語り続けました。すると弟子たちは、もう時間が遅いので、群衆を解散させて、自分たちで食べる物を買うようにさせたらどうで

すか、とイエス様に提案します。ところがイエス様は弟子たちに、「**あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい**」と言われるのです。弟子たちは、「五千人」もの群衆に食べる物を提供することなど不可能だと思っていたので、「群衆を解散させてください」と言ったのです。弟子たちの計算によると、「五千人」もの群衆にパンを買って食べさせるとしたら、「**二百デナリ**」は必要でした。「一デナリ」は、当時の労働者の一日分の賃金でした。もし仮に一日の労働者の一日分の賃金を一万円だとすると、「二百デナリ」は二百万円にもなります。

しかしイエス様は決して、弟子たちに二百万円分のパンを買って来て、五千人の群衆に食べさせなさいと言っているわけではありません。イエス様は弟子たちに、「**パンはいくつありますか。行って見て来なさい**」と言われるのです。イエス様は弟子たちに、『『今あるもの』をわたしのもとに持って来なさい』と言われるのです。すると弟子たちは、「五つのパンと二匹の魚」をイエス様に差し出しました。イエス様は、弟子たちが差し出した「五つのパンと二匹の魚」を祝福して、それを増やし、「五千人」もの群衆のお腹を満腹にし、彼らの「体の必要」を満たされたのです。しかも最終的には、「**パン切れが十二のかごいっぱい**」に余るほどでした。なぜ「十二のかご」なのでしょう。それは、「十二人」の弟子たちの食べ物を残しておくためだったのではないのでしょうか。弟子たちは、「五つのパンと二匹の魚」をイエス様に差し出しました。するとイエス様は、それを「五千人」が満腹するほど増やし、弟子たちも満腹できるほど「十二のかご」に残されたのです。

おわりに

イエス様は、イエス様を知らない群衆を、羊飼いのいない羊のように見られます。そして彼らを見て、深く心を痛めておられるのです。時には、弟子たちの休息よりも、群衆の「魂の必要」と「体の必要」を優先されます。旧約聖書の詩篇 23 篇に、「**主は私の羊飼い。私は乏しいことはありません**」(詩篇 23:1)とあるように、イエス様は、私たちの「羊飼い」となってください、私たちの「魂の必要」と「体の必要」を満たしてください、私たちが養い育ててください。私たちには「羊飼い」がいますので、自分勝手な道に歩むことなく、神様の道、光の道を歩むことができるようにされました。

私たち人間には、「羊飼い」が必要です。「魂の必要」と「体の必要」を満たして下さる「羊飼い」が必要です。そうでなければ私たちは、自分勝手な道に歩み、自分の罪のゆえに、人生において多くの苦しみと悲しみを招き、最終的には神様の怒りと呪いの下に、永遠の地獄の刑罰へと投げ込まれます。

私たちは、羊飼いのいない人々のために、何ができるのでしょうか。イエス様は、彼らのために心を痛めておられます。私たちもイエス様と同じように、心を痛めているのでしょうか。イエス様は私たちにも、「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい」と言われているのではないのでしょうか。私たちは、「疲れているから休みたい」とか「二百デナリもの大金は持っていない」などの言い訳があるかもしれません。しかしイエス様は、「五つのパンと二匹の魚」を祝福して、増やされる方です。私たちが今持っているものを祝福して、増

やされる方です。私たちは、イエス様が豊かに祝福して満たしてくださると信じて、ただ自分の持っているものを、イエス様に差し出せば良いのです。自分の心を、自分の時間を、自分の賜物を。

私たち教会は、イエス様に代わって、羊飼いのいない人々の「羊飼い」とならなければなりません。私たちがイエス様に代わって、彼らの「魂の必要」と「体の必要」を満たしていくのです。コロナ渦で、私たちの教会の活動は、「礼拝」と「聖書を読む会」のみになりました。それは「魂の必要」を満たすための活動です。しかし教会の宣教は、「魂の必要」と「体の必要」の両面を満たすものでなければなりません。そのために教会には、牧師、長老、執事という教会役員が立てられているのです。おもに「魂の必要」のために牧師と長老が立てられ、「体の必要」のために執事が立てられています。しかし私たちは、少しずつ「体の必要」のための活動も再開していきたいと思っています。7月からは、第三週のウェルカム・サンデーの後に、「昼食の交わり」を再開します。また小会では、9月から「子ども食堂」を再開することを計画しています。

イエス様は、弟子たちの休息よりも、羊飼いのいない羊のような群衆の魂と体の必要を満たすことを優先されました。私たちの教会も、自分たちの休息も大事ですが、時には羊飼いのいない多くの人々の必要のために、自分の心や時間、賜物を献げることも必要ではないでしょうか。私たちもイエス様と同じように、羊飼いのいない人々のための深い心の痛みを持ちたいと思います。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたは私たちの羊飼いです。私たちの「魂の必要」と「体の必要」を満たしてくださる方です。しかし今なお多くの人々が、羊飼いであるあなたを知らず、弱り果て倒れています。どうか私たちにも、イエス様と同じ心を与えてください。彼らに対する深い心の痛みを与えてください。私たちの教会は小さく、多くの弱さを抱えています。それでも「五つのパンと二匹の魚」を祝福して増やしたイエス様を信頼して、自分の心を、時間を、賜物をあなたにささげることができますように。そして、イエス様に代わって、多くの人々の「魂の必要」と「体の必要」を満たす「羊飼い」となることができるようにしてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。